

◎議長（鈴木敏正 議員）

皆さん、おはようございます。

出席議員も定足数に達しておりますので、直ちに本日の会議を開きます。

本日の会議は、議事日程第3号によって進めます。

日程第1、「一般質問」を行います。

発言通告のあった方は、1番 小関英子 議員、3番 塩原未知子 議員、4番 石塚ミツ子 議員、5番 青野隆一 議員、6番 奥山 格 議員、8番 菅野修一 議員、16番 大類準一 議員、以上の7名であります。

発言の順序は、議長より指名いたします。なお、質問、答弁を含め、1議員1時間の持ち時間制となりますので、議員の質問に対する当局側の答弁は、質問者の時間制約もありますので、ご協力をお願いいたします。

まず、3番 塩原未知子 議員の発言を許します。

塩原議員。

〔3番 塩原未知子 議員 登壇〕

◎3番（塩原未知子 議員）

おはようございます。12月定例会初日の冒頭、一言申し上げます。

震災後1,000日目の昨日、「和食日本人の伝統的な食文化」のユネスコ無形文化遺産の登録が決まりました。おめでとうございます。国内の無形文化遺産登録は22件目だそうです。食文化では初めてで、福島の第1原発事故以来、日本食への風評被害が海外でも広がった中での登録の決定により、信頼回復がこれから進みそうです。落ち込んでいた経済も、オリンピック特需や安倍首相のかかげるアベノミクス効果で大手輸出企業が円安の恩恵で業績が著しく改善され、今月の経済動向は雇用関係の改善もみられ、昨年までの閉塞感は薄らいできたように感じます。

しかしながら、まだまだ東北の被災地では27万人の方々が避難生活に苦悩しております。一日も早い被災地の復興復旧を願います。日本の経済は上向いてきているとは言われますが、これから厳しい雪の季節を迎える尾花沢市においては、燃料の高騰、水道、電気の値上げや、これから予定されている数々の増税などで、不安はつのるばかりです。

未来はどこへ向かうのでしょうか？首都圏の大企業や一部の業種には改善はみられても、歳入の半分を国の援助なしでは立ち行かない過疎と高齢化が加速している尾花沢市においては、アベノミクス経済は私にとっては異次元のように感じられます。迷走しながらも、

閉塞していた日本の経済をさまざまな問題や不安を抱えながらも得体の知れないアベノミクス効果の大きな流れの中で、かつてのバブル期を思わせるような、活発な経済の動きが見られる場面が年末の日本に現れてきました。電気も水道も電話もつながらなかった1,000日前の大震災の衝撃は、最近も毎日テレビで流れる日本の各地で起きた余震の報道に、また生々しい感覚として、心も体もこわばるばかりです。間違いなく社会の流れ、人々の思いが日々変化していることを感じる今年の年末であります。

この大きな経済の流れの中、流れにはあまり翻弄されていないのか、「今も昔がある」ふるさと尾花沢ではありますが、先月まで140年、130年の歴史ある学び舎を、未来ある子ども達のために閉じた福原地区の4つの小学校の閉校式と思い出を語る会に参加して、それぞれのふるさとの深き思いにふれ、これから先、安心安全で暮らせるまちづくりをどうするか。そのためにどう考え行動すべきか、思い出を語る会に集った皆様と議論しました。

そこで交わされた会話の中には、特に印象的な言葉があります。「急激な少子化に地域は為す所がない現状なんだ」「すぐ目の前を見透せない生活が不安だ」「市政に対しての不信感がある。しかし、あきらめている」との言葉でした。それぞれの言葉を重く深く受け止めて、これから先、益々進む少子高齢化の地域コミュニティの維持をどうするべきか、地域の歴史と文化の存続について、自分達の地域を守り育てる人々のあふれる思いにふれました。

近隣には、学校が足りなくて新設する自治体もあります。その中での、福原地区の小学校の統廃合は未来に羽ばたく子ども達も含め、地域の英断だったと思います。一言が大変長くなりましたが、加藤市長には、多岐にわたりお聞きしたいことがたくさんあります。まずは通告に従って4つの質問をします。「あれも、これも」でない、市民の心に届く「元気な尾花沢」を取り戻すために、分かりやすいご答弁、よろしく願いいたします。

まず始めに、雪コンシェルジュ案内係の設置についてお伺いします。先月、多すぎる初雪の様子を見る限りでは、わずか1日にかなりの数の電話や苦情が殺到したことでしょう。雪に関する問い合わせ、情報発信には、道路除排雪、通学路の安全確保、積雪情報、警報・注意情報、観光情報、雪に関わる助成等の指導、学童の通学路の危険通報など、今一番心配されているところです。問い合わせまでに時間を要する場合や、担当

課が分かっているにもかかわらず担当者が電話対応や現場対応で不在等の場合もあり、市民からの問い合わせにすぐ対応できない場合も多いと聞きます。すでに誰もが知る豪雪地、尾花沢市です。冬期間は「雪に関する問い合わせ」が毎年繰り返し寄せられていると思います。最近には特に、豪雪時の安心安全にかかわる道路の除排雪の苦情が増えているように思います。私のところにも、大雪の朝などは市役所に電話をしたが繋がらないとの苦情を何度も受けております。市民の中には、雪の困りごとなのだが、どの課に相談すれば良いのか分からない。電話をしても待たされて、あちこちの課へたらい回しされる。あげくのはては「地域のことは一番良くわかる区長さんへ」との返事に、今伝えなければならない緊急事態の連絡をどうすればいいのか、折り返しの電話を待っていたら次の日になってしまったなどの「問い合わせに対する苦情」、これをできるだけ少なくする工夫をしたならば「雪の苦情」の半分は減るのではないのでしょうか。これも雪の少ない年には、何の心配もないんです。しかし3年続きの豪雪、災害認定まで受けた緊急事態だった今年の2月、3月を経験すると、「ああ、また雪の季節だ。雪の担当者は現場対応に追われて、次々にくる問い合わせに、本当のところ対応は改善されているのだろうか？」と心配になります。この窓口対応だけは改善できるのではないのでしょうか。民間企業ではこのような場合、お客様対応の窓口を質、量ともに増強し、顧客満足度を一時的にでもあげる工夫をします。夏には全く必要ないことですが、冬の期間「雪」に関する対応をいろいろ研究している当市です。知識と経験を活かして、天気予報を見れば降雪の多いか少ないかは事前におおよそ分かると思います。豪雪対策本部が立ち上がる前に、冬期間の臨時的な措置として雪コンシェルジュ案内係を設置して、雪に関する問い合わせ・情報発信の窓口を一元化することで、迅速な対応が可能になると考えますがいかがですか。

2つ目に、行政のオープンデータのお考えについておたずねします。さまざまな公共データのデジタル化に伴い世界的な流れが今、日本にも始まっているとお聞きしています。例えば、地図情報や観光パンフレット、統計データや歴史的価値のあるコンテンツから、昨今のゆるキャラブームのキャラクター使用の著作権など、税金で創造したすべての公共データ、行政の情報、ルールを守ってだれでも閲覧使用可能にして新たな価値を創造するべきだと思います。尾花沢市のコンテンツ管理・著作権管理は適正になされているのかお聞きします。また、オープンデータについてどのよ

うな取り組みをされているか、または計画されているのか併せてお聞きします。

特に、最近気になるところでは、学校の統廃合により閉校された学校の、閉校後の各校が所持するハード、大きくは空き校舎、その他備品、その他ソフトウェアとして写真データや校歌、パソコンのソフト等、さまざまな資産があると思いますが、どのように活用するのかお尋ねします。

また、庁舎内の文書管理保管義務は5年までと以前お聞きしたことがあります。来年は市制施行55周年とのことです。新庁舎建設も、現在住民アンケートやパブリックコメント等を募集しているところですが、町村合併以前の尾花沢町、玉野村、福原村、常盤村、宮沢村、それぞれの町村時代の地域の歴史や資料は現在どのように残っているのでしょうか。心配されます。さまざまな行政情報、文化的資産など、広く活用が図られるようにオープンデータ化するお考えはないか、併せてお聞きしたいと思います。

3番目に、以前も質問しましたが、来年6月から9月に開催される「山形日和」DCキャンペーンの取り組みについて、再度おたずねします。オリンピック招致合戦の滝川クリステルさんの演説中の「お・も・て・な・し」が流行語大賞にノミネートされたようですが、本市は、今年3月まで実施されていた東北観光博の「銀山温泉エリア」の実績でも分かるように、観光における「おもてなし」では東北一の高い評価を得ています。さらに、各地区の特徴ある農村の「おもてなし」は本場にピカーの市内です。

しかし、全国から注目されるDCキャンペーンを成功させるためには、それだけでは足りません。初めての訪問者にも分かりやすいインフォメーション、情報発信が大変不足していると言われてます。特に、震災後に激減していた外国人の観光客が戻りつつある銀山温泉においては、案内標識、外国人向けの地図、インターネットの情報発信、電話対応等発信力強化と、本町地区や他の主な観光地におけるトイレの改修を進める必要があるとの声を多く聞きます。

観光産業は、アベノミクの三本の矢の即効性のある地域産業の活性化の一番の要であります。当市の基幹産業である農業が生き残るための「6次産業化」の展開にも欠かせません。地域に関心をもっていただき、地域に来ていただくために欠かせないのが、今、ホームページの情報発信です。主要な観光地までのガイドマップが大変不足しています。魅力的な旬のお知らせをする情報体制も不足しております。道路の誘導看板

や現地でのボランティアガイドの育成に、各市町村はさまざまに準備しているとお聞きしています。銀山温泉ばかりでなく、市内の各地の受け入れ態勢は万全でしょうか。観光全体に関する市長のお考えなど、お聞かせください。

最後に、加藤市長が掲げる「元気な尾花沢」は実現されたのか。元気尾花沢の政策についておたずねします。3年連続の豪雪により、ここ数年雪の少ない近隣市町村に移り住む市民が急激な勢いで増えているように思われます。あわせて高齢者の死亡なども含めると、今年は300人以上の人口減少が見られます。人口減少に伴う長期的・短期的な対策と展望を、どのようにお考えなのか、具体的にお聞かせ願いたいと思います。これから尾花沢にとって、一番1年で辛い時期がやってきます。しかし、冬がなければ希望の春も、活力ある夏も、豊かな実りの秋もあります。尾花沢は毎年必ずやってくる「めっぽう多い雪」の季節を安心安全に過ごせるならば、日本一、世界一住みやすく豊かなふるさとであると私は確信しています。そのために加藤市長におかれましては、市長就任から長期にわたって各地で開催されている「元気を語る会」で市民の皆様から直接お話をお聞きし、しっかりとマーケティング戦略ができていくことと思います。オリンピック特需、アベノミクス効果の今こそ、各地区、またオール尾花沢が元気を取り戻す政策を市民の心に直接伝わりやすい言葉でしっかりとご答弁お願いいたします。

これで私の壇上からの質問は終わりますが、必要に応じて議席からの発言をお許しください。

◎議長（鈴木敏正 議員）

市長。

◎市長（加藤國洋 君）

おはようございます。ただ今、塩原議員からは、大きく4項目についてのお尋ねを頂戴しましたので、順次お答え申し上げたいと思います。

まず、豪雪地帯の本市における雪コンシェルジュの設置についてというお尋ねでございます。雪に関する相談内容につきましては多岐に渡っておりまして、かつ専門的な知識も必要とされることから、具体的な対応策はそれぞれの課が担当してございます。市民からの問い合わせに迅速に対応するためには、相談を受ける全職員に対する知識の向上が不可欠でございます。市長就任以来、市民の皆様への丁寧な対応と相談窓口の一元化を目指し、接遇や市民ホール、各課の受付窓口の改善を進めてまいりました。最近では市民の皆様から「職員の対応が良くなった」とお褒めの言葉も頂

戴してございます。職員には担当業務ばかりではなく、市全体的な業務への相談にも応じられるよう研修を進めておりますが、案件の内容によりまして担当課での対応が必要な場合もございます。その際には担当職員が伺いご用件をお聞きしたり、窓口の職員が担当課へご案内するなどして対応しているところでございます。まずは、問い合わせや情報発信内容に関する担当課を明示した内容をまとめ、広報誌や市ホームページ等に掲載し、分かりやすい情報の提供に努めてまいります。

次に、オープンデータについてのお尋ねでございます。本市のコンテンツ管理・著作権管理についてのお尋ねでございますが、銀山温泉などの写真につきましては、申請があれば雑誌やパンフレットに掲載できるよう市が著作権を持っているものを用意してございます。また、「花笠まつりフォトコンテスト」の入賞作品につきましては、著作権が主催者すなわち4大まつり実行委員会に属するよう募集時にお断りし、さまざまな場面で活用させていただいております。

広報写真や本市のイメージキャラクター「ゆきごろう」につきましては、外部団体が使用する場合には使用許可申請書を提出していただき、その目的が適当であるかを審査を行い使用を許可しておりますので、お気軽にご相談いただきたいと思います。しかしながら、人物が写った写真についての肖像権、著作権などの課題もあることについて、ご理解をいただきたいと考えてございます。

次にオープンデータについてでございますが、オープンデータの明確な定義はないようではありますが、だれでも入手が可能で自由に利用や配布ができるデータであり、インターネット等から手軽に入手できるものであります。利用料などは求められず、利用する分野や方法、著作権などのライセンスといった制限もなく、入手したデータの加工や修正など自由に使用でき、さらには再配信や譲渡も認められているデータを指すことが多いようでございます。政府においても国家戦略として「電子行政オープンデータ戦略」を掲げ、政府だけでなく都道府県や市町村といった地方公共団体も含めて、公共データの洗い出しとオープンデータ推進のための環境整備を進めており、2014年度と2015年度を集中取り組み期間に位置づけている状況にあり、県においても、市町村を対象に説明会や勉強会を実施しているところでございます。

本市におきましても、ホームページ等でさまざまなデータ、情報を公開しておりますが、写真等個人情報

保護に関わる課題もあります。データを一元的に管理し蓄積することにより、各種データの分析が容易となり、新たなサービスやビジネスの創出も期待されることから、各種団体と連携を図りながら調査、研究を進めてまいりたいと考えております。

次に、閉校後の学校施設をはじめとする空き公共施設の利活用についてでございますが、市内に「空き公共施設の利活用及び管理に関する検討委員会」を設置し検討を進めており、行政や地域での活用、または公募等による施設の活用等を進めております。

備品等の活用についてでございますが、尾花沢市財務規則の規定により処分等の手続きの上、処理してございます。具体的には、まず各学校より現品を見ていただき、活用できるものは移管して活用しております。次に、市関係各課の連絡の上、各学校と同様に必要なものは移管して利活用していただいております。

市及び市関連団体等で利活用の要望がない場合は、地域の区長さんへ連絡の上、現品を見ていただき活用できるものにつきましては無償譲渡を行い、どうしても利活用のないものについては廃棄処分としてございます。パソコン及びソフトにつきましては、使用可能なものについては他の学校に移管して活用いただいているところでございます。

また、地域の文化資料や歴史的に貴重なものにつきましては、社会教育課文化財係担当でございまして、ここと連携して保存することで連絡を密にして対応してございます。永久保存しなければならない資料、例えば学校の沿革誌、卒業台帳、記念誌などは、統合後の学校に引継ぎ保存してございます。

ソフト面の利活用ですが、統合後の各学校に廃校となった学校の展示スペースとして「メモリアルコーナー」を設置して、文集、記念誌、写真等の展示を行い、来校者に対して閲覧をしていただいております。関係資料のデータ化については、今後検討してまいりたいと思っております。

校歌については、平成19年度から統合計画がスタートすることから、全小中学校の児童・生徒の合唱を録音し保存しようということで製作に取り組み、平成18年3月に中学校、平成24年3月に小学校がCDとして完成し、楽譜集とともに保存しております。同窓生等で必要がある場合には貸し出し等も行っておりますが、今後、ホームページへの掲載が可能かどうか検討してまいります。

次に、デスティネーションキャンペーンについてのお尋ねでございます。DCキャンペーンの取り組みに

つきましてでございますが、今年度はプレDCが開催されており、8月には山形DCキャンペーン推進協議会主催による全国販売促進会議が開催され、山形の魅力をPRしました。その翌日には、国内各地から旅行エージェントやJR関係者約20名が銀山を訪れ、非常に高い評価を受けたところでございます。さらには、昨年度に開催された東北観光博では、当市の地域観光案内人が非常に高い評価を受けたところであり、本DCに向けてぬくもりとあたたかさのある「お・も・て・な・し」を実施してまいります。

議員仰せのとおり、インフォメーションは非常に重要であると考えてございます。平成26年度のDC本番に向け、市の観光総合パンフレットをお客様の利用しやすいものとのリニューアルも含め、効果のあるPR方法についても考えているところでございます。さらに、尾花沢市のHPもリニューアルする予定でございますので、タイムリーな情報発信を行っていきたくと考えております。

また、観光地のトイレ改修についてでございますが、現在の設置状況は、徳良湖に5箇所。これは、花笠グラウンドの花笠広場、徳良湖南側、徳良湖東側、花笠ふれあいセンター、自然研修センター、銀山温泉に3箇所。かじか大湯、しろがねの滝のところでございます。それから、白銀公園となっております。

徳良湖につきましては、イベント開催時に混雑する場合がございますが、徳良湖全体としては現状の数で対応できると考えております。銀山温泉のトイレにつきましては、受入客の環境向上のため従前から新たに設置する要望がございますが、土地の問題や銀山温泉組合とのコンセンサスと協力が必要なことから、今後の課題と考えてございます。

また、観光全般に関する私の考えとのお尋ねでございます。マスツールズムの観点からと、観光とは観光者にとっての勢いにおいて良く知られているものを、ほんの少し一時的な楽しみとして売買することという一つの定義もでございます。

この観点から申し上げますと、観光とは「有名なものを確認して、いわゆる発見して満足する観光」と「未知のものを発見する冒険的なもの」に大別されるのではないかと考えられますが、本来観光は地域の方々から自分で誇りを持って、自ら楽しめる素材を自ら発信していくことが、他からの誘客につながっていくのではないかと考えてございます。

ちなみに、テレビでご覧になった方もいらっしゃるかと思いますが、京都府の山間地にある茅葺32戸の南

丹市美山町北村地区の取り組みが、今、台湾の観光客から非常に脚光を浴びております。もう予約が、もう民宿が取れないという状況でございますようで、ここは特別なものではなく日常のありのままの生活を体験することで喜ばれているといえます。今後こういったものが観光のテーマになってくるのではないかと感じております。

市の観光につきましては、第6次総合振興計画の観光基本構想を基に、現在の本市の観光拠点である「銀山温泉・徳良湖周辺・花笠高原周辺・芭蕉10泊のまち」への誘客拡大、そして4大まつりと位置づけている徳良湖まつり・おばなざわ花笠まつり・まるだし尾花沢ふれあいまつり・雪まつり等のイベントの充実を図り、観光の振興を目指してまいりたいと考えてございます。

また、東北観光博やプレDCでの成果をもとに、さらに誘客につながるよう努めてまいりたいと考えております。本市の魅力ある観光資源を活用しながら、ストーリー性があり持続可能な観光メニューづくりや広域的な連携も含めたルートプランの構築を行い、さまざまな観光ニーズに対応することが重要と考えております。

また、通過型でなく宿泊滞在者を増やすことも大変重要であり、宿泊者が増えることで、ゆっくりと尾花沢市の良さを体感していただくことが、さらなる経済波及効果を生み出していくものと考えてございます。

続きまして、元気尾花沢の政策についてのお尋ねでございます。平成22年8月の市長就任から3年4カ月が経ち、任期も残り8ヶ月となりました。「市民の皆様の声を直接市政に反映する取り組み」を進めるため、「元気な尾花沢を語る会」を開催し各地区や女性や高齢者、子育て世代、各種産業関係などさまざまな方々とお話をさせていただいております。

また、議会の皆様方からのご提言やご理解とご協力をいただきながら、元気な尾花沢づくりのために邁進してまいりました。起業家の育成や事業創出を積極的に支援するとともに、「若者が定住できる産業が盛んな尾花沢づくり」を積極的に進めてまいりました。福祉分野での雇用拡大につきましては、国の施設介護から在宅介護への動きの中で、地方の実態を強く訴え「よつば荘」、「特老おばなざわ」の開設や増床を行なってきたところでございます。

また、「教育、子育て支援を強化し安心して暮らせる尾花沢づくり」として、中学校3年生までの医療費無料化を行い、子育て世代の経済的な負担軽減や、パレ

ットスクエア内に「ABES A」を開設し、天候に左右されない子育て等の拠点施設の整備を図ってきております。定住支援策として「ふるさと暮らし応援事業」を創設し、宅地購入事業や若者民間賃貸住宅への助成を行ってまいりました。事業を活用されて市外から転入された方は平成23年度以降78人の転入があったところ

です。次に、「地域産業の強化と6次産業の推進」ですが、本市特産品のブランド確立と消費拡大のため、トップセールスに力を入れてまいりました。尾花沢スイカの出荷にあわせ、大阪市場や太田市場、銀座のアンテナショップでのPRや「雪降り和牛尾花沢」の販路拡大のため、大消費地でのセールスを行ってまいりました。

市長就任以来、3年続けての豪雪となり、「雪に強く、住みやすい尾花沢づくり」のために、無雪化プロジェクトを進めております。また、流雪溝の整備や防雪柵の設置を進めるとともに、流雪溝の用水確保のため、水利権取得に向けた調査や鶴子ダム

の豊水利用など、国・県との要望活動や打ち合わせを進めております。国道347号の通年通行実現につきましては、これまでの取り組みが実を結び、平成28年冬期開通の見通しが立ち、「交流人口を増やし、賑わう尾花沢をつくる」ための環境が整いつつあるところでございます。

去る11月25日には、宮城県大崎市長、加美町長との対談も実施させていただき、今後の国道347号沿線交流について実りある意見交換をしたところでございます。通年通行を見据えて、首都圏の企業が1社、新たに福原工業団地への立地を決定され、準備に入ったところでございます。

これまで元気な種を蒔き、芽出しを行い、いよいよ花を咲かせる時期となりました。今後とも引き続き「元気な尾花沢づくり」に向けて力を尽くしてまいりたいと考えているところでございます。以上、私の答弁でございますが、答弁漏れや詳細につきましては担当課長より答弁いたさせます。

◎議長（鈴木敏正議員）

塩原議員。

◎3番（塩原未知子議員）

はい、ありがとうございます。わかりやすい説明と思いますが、なかなかちょっと成果がきちんとした言葉で受け取れなかったなど、私のほうでは思ってるんですけども。もう少し、詳しくお聞かせいただきたいと思います。そのあたり。まず、最初に雪コンシェル案内設置の件なんですけれども、各課が対応して専門的なこともあるのでっていうことで先ほどお聞きし

たところですが、いろんな請願陳情でも、除排雪に関する策として流雪溝の設置、さまざまな工事あるわけですけれども採択されても進まない、それが住んでいる皆様にとっては不満があり、その間、除排雪がこない、今年もまた大雪だということでもさまざまな空回りっていうんですかね、感じているところです。地区ごとにさまざま違う雪の事情ではあるとは思いますが、それを飛び越えた情報発信というのも大切なのではないかなと思っています。専門的な知識を、全職員の皆様が知識共有できるのであれば本当に心強いことですので、どんどんそちらのほうは進めていただきましてさらに分かりやすく、地区に対しては説明をするということを常にやっていただきたいんですが、どうしてもですね、そのあたり、本当に伝わっているのかなということを日頃、私思うところです。

コンシェルジュ案内係を設置してはというのは、民間的な発想だとは思いますが、こういう対応こそ、今の加藤市長は元々民間出身でいろいろな事業に関わってきた方でありますので、特に進めていただきたいなと思っています。電話対応に関する苦情、私すごく受け取っております。電話してもつながらない、後は問い合わせしたんだけど結果的に答えが返ってこなかったというような、がっかりするような言葉をよく聞きます。

窓口に来て、先ほど窓口対応が非常に良くなったということを私も感じます。本当に明るい職員多くなったなと思うような次第ですけれども、電話対応だけでももう少しあの丁寧を受けていただいて、つながらないということがないようにしていただければと思います。

そして、インターネットの情報発信で前の日の夜にでも、次の日の朝どれくらいの雪が降るなんていうことは、大抵わかるようになってきた昨今の事情ですので、情報事情ですので、ぜひその辺りも含めると、土日にかつと雪が降るなんて思われるような時であれば、金曜日の手配なり何なりができると思います。

対応するのが豪雪対策本部ができれば、もう少し改善されるんでしょうけど、それができない時には手薄になることが分かりきっておりますので、ぜひやっていただきたいなと思いますけれども、このような電話対応はどういうふうにお考えでしょうか。もう一度、担当課からでも結構ですので、お答えいただければと思います。

◎議長(鈴木敏正議員)

建設課長。

◎建設課長(斎藤晃君)

はい、それでは、除雪に対する対応についてということで、若干私のほうからお答え申し上げたいと思います。まず、市長のほうからも話ありましたように、除雪については今年度、契約も全部終わりました、機械等の配備も終わりました、今、体制を整えているところでございます。

まず、除雪のですね、いろいろ問い合わせ関係でございますけれども、昨年のあらましざっとした件数でございますけれども、いわゆる個別に来たものについては即座に対応するというので常に心掛けておりまして、ある程度区長さんとか市民からの問い合わせにつきましては、まあ多い時で1日に何十件という形が出てきているということでもあります。

平成24年度において、各委託業者のほうにまあ指示とか、それから県道関係、北庁舎あたりに連絡とかFAXなどで随時対応しておりまして、記録が残っているものについては、だいたい130件くらいあります。そのほか電話等も含めると300件は超えるんじゃないかなあということで、今はっきりした記録は残っておりませんが、そういうなことでもっているということでございます。

今年度の対応でございますけれども、塩原議員のほうからもありましたように、対策本部が設置されれば常駐体制ということでできるんですけれども、その前の対応といたしまして、建設課といたしまして除雪に対する問い合わせについては、これまで通り即座に対応できるようにということで、課内において誰でもが電話対応できるような形にするということと、確実に来たものについては除雪担当者のほうに伝わるようにするというので、できるだけ瞬時に対応できるという形ですということ、この前、課内でも打ち合わせを行ってきたところでもありますので、今後そういう形で行っていきたいというふうに思います。

あと、それから緊急連絡でございます。土日休みの日ですね、市役所のほうには電話通じませんが、消防署のほうに電話通じるようになっておりますので、消防署のほうからは除雪の担当の携帯のほうに連絡するという形になってございます。

あと、併せまして区長さんに今年の除雪計画書をお送りしまして、その際にも除雪担当者の携帯電話、緊急時の携帯電話でございますけれども記載してございます。そういうことで、区長さんから又は市民の方からです、いろんな形が出てきましたら即座に対応できるような形でやっていきたいというふうに考えており

ます。

◎議長(鈴木敏正議員)

塩原議員。

◎3番(塩原未知子議員)

はい。ありがとうございます。

昨年よりは、改善されたということをお聞きして少し安心してるところです。今年、雪が少ないことを祈りますが、まあだいたい多いのではないかと予想も出ておりますので心してお願ひしたいと思います。いろいろな雪の苦情あると思いますけれども、雪をながむる尾花沢、雪景色の銀山温泉などがしっかりと定着して、雪を逆手にとった尾花沢雪ブランドが浸透しているところです。

DCキャンペーンも夏の期間ではありますけれども、この雪の季節にこそ尾花沢にたくさん来ていただいですばらしい雪のふる里、ここの尾花沢を体験していただきたいなと思っておりますので、ぜひ、そのあたりよろしくお願ひいたします。

昨今ですね、雪の対策ということの中で、子供達の通学路の確保が非常に心配されてるところです。特に、防災の観点からも含めまして、いろんな情報発信が必要になってくると思っておりますけれども、先頃インターネットのコンテンツでありまして、「NHKの防災マップ」というアプリがあります。私も、最近見つけたところなんですけれども、自分たちで危険箇所を探しまして、そのアプリをダウンロードして情報を共有していくというような簡単なものなんですけれども、それが全国何カ所か立証実験みたいな形で、ネットのほうでみることができます。

ぜひですね、子供達も含め自分たちの通学路の雪のときには、このような状態になるということを把握して、親も含め地域の人達も含め、危険箇所の把握などもしていただきたいなと思っております。まあ、無料で利用できるコンテンツでありますので、ぜひ一度ご覧になっていただきたいなと思っております。一応、いろいろ雪の心配はありますけれども、まだ外には雪がありませんので、まずそのような対策を練っていただいて、がんばっていただきたいと思っております。私のほうも、いろいろな情報発信できるようなコンテンツありましたら研究していきたいなあって思っているところです。

次に、もう少し質問したいのが、そのオープンデータ。デジタル化した時に、いろいろ活用できるものがあるということで、先ほど、答弁の中にはなかったんですけども、いろいろな知的な財産、市内にはたく

さんあると思います。文化的な財産もありますし、その地域に残る伝承すべきこともあると思うんですけども、ほぼ写真で残っていたり、口伝で残っていたりすることが多く、書物で残っていたりすることが多いので、デジタル化されているものが少ないのかなと思っております。ですので、ぜひ、これからオープンデータのまだまだだとは思いますが、ルールができてないところだとは思いますが、データ化することによって劣化が防げます。写真が色あせるとか、朽ち果てるということはありませんので、デジタルデータに今起こしていくことっていうのも、大切になってくるかと思っております。そのあたり文化財の保護関係でどういふような進み方をしているのか、ちょっとお聞きしたいんですけども、担当課のほう分かる範囲で願ひしたいと思います。

◎議長(鈴木敏正議員)

社会教育課長。

◎社会教育課長(間宮健一君)

文化財関係のデジタル化ということでございますが、今のところまだ何もなっていないのが現状でございます。ですので、今後担当課のほうとも協議いたしまして出ているものについては、すべてやらなければならないかなと考えております。

ただ、それ以外で一昨年になりますが、地域の伝統芸能につきましてはCD化などを行っているということもやっておりますので、そういったものから順々に進めていきたいと、このように考えております。

◎議長(鈴木敏正議員)

塩原議員。

◎3番(塩原未知子議員)

はい、ありがとうございました。

本当に、地域に残る宝は、やはり地域に残されているかっつてこういうことがあったよっつていうような文化の伝統であると思っております。それが今、観光のコンテンツになりお客様がやってきたときに、「あっ、こんなところがある」「こんな行事がある」「こんな楽しいところがある」ってことで、先ほど市長のほうも、有名などころを見に来ると、改めて初めて体験する体験を、未知の体験という言葉で置き換えておりましたけれども、そういうことだと思っておりますので、ぜひ、残していただきたいなと思っております。

尾花沢には、本当に多岐にわたるいろいろな文化が残されていると思っておりますので、この辺りも含めてデジタル化もお考えいただきたいと思っております。資料館のほうも今年で30周年。いろいろなイベントのほうを開催

して、私も先月、今収蔵展12日までですね。確か。12月10日まででしたかしら。もうすぐ終了するんですけども、ぜひ、皆さんにもお運びいただいて、資料館に残されているすばらしい資料を、今後とも残していただきたいと思います。まだ、デジタル化にはなっていないということで、このあたりも先ほどのオープンデータもそうなんですけれども、データベースにするといつでも引き出せるっていうことで、たくさんのお客さんの書物を並べることなくITの情報を引き出すことができるようなツールも出ておりますので、ぜひ今後そのようなお考えで、大切な物を残しておくオープンデータの勉強を続けていただきたいと思いますと思っています。

10年、20年、100年先の未来の尾花沢のまちづくりをデザインするためにも、昔の資料ということを大事にしていかなければいけないのかなと思っています。さらに、防災の観点からも地区の危険箇所、その他100年前に大きな雪崩があったとか、崖崩れがあったなどという情報も、実は今大変貴重になっていると言われている。

そういうこともありますので、行政が保持するさまざまなデータがあると思いますので、そのあたりも検証できるような形、研究していただきたいと思います。本当に、いろいろな勉強も必要なんですけれども、使える物は使っていく、情報化に乗じて尾花沢ではクラウド化を進めていると、前に何度もお聞きしておりますので、量としてはたくさんあってもデータはそんなにかさばりません。ですので、部屋1つ必要なほどのものにはならないと思いますので、すべてのデータを本当に情報をデータ化しても大した量にはならないと思いますので、ぜひそのようなお考えでホームページのほうも活用して、私達も閲覧できる、全世界からでも閲覧できるような形に展開していただければと思っています。

では、次の質問なんですけれども、DCキャンペーンの取り組みで、もう一度お聞きしたいところございます。中でも、情報発信のことは先ほどいろいろこれから検討されていて実施されるってことをお聞きしましたので、安心していらっしゃるのですが、トイレに関してなんですけれども、もう少しお聞きしたいことがあります。

銀山のほうでは、先ほど最初3ヶ所あるということでお聞きしましたが、数としては足りないということだったと思います。それが、組合と地域ととの折り合いという言葉でお聞きしましたが、実際どのような人

数の変化というか、かなり日帰りのお客が増えていた昨今だと思われます。お泊まりのお客さんの倍以上、5倍以上ぐらい私は来ているのかなと、お泊まりのお客さんの数はそんなに増えないと思いますが、日帰りのお客様が本当に増えてきていると思います。大型のバスひとときりちょっと来なくなった時期もありますけれども、最近また復活しまして大型40人乗りのバスが何台も道路をふさいでいるのを目撃しておりますので、そのあたりどうでしょうか。

現場の様子、あと今後の本当に必要なものは、必要なものとして用意しなければいけないと思います。DCキャンペーンでどれくらいの集客を見込んで、今以上に売り込んでいるのかも含めてお聞きしたいと思います。

◎議長(鈴木敏正議員)

商工観光課長。

◎商工観光課長(五十嵐与志一君)

はい、お答えいたします。

まず、銀山へのお客さんの入り込みの状況でありますけれども、3年ほど前に入り込み状況調査を行いましたところ、3割対約7割という形で日帰りが倍以上いらっしゃるような結果が出てございます。

トイレの増設につきましては、かねてより課題の1つということで銀山温泉組合ともいろいろ話をしてきた経過がございます。やはり、設置場所ですとか、地元のコンセンサス、みんなでトイレを整備しなくちゃいけないという気を高めてですね、そういった実際作るほうに向けていかなければならないのではないのかなと思っています。地元の気が盛り上がりれば、それに対して市としても、いろいろな面で考えていくということだと思っています。

あと、DC効果によります入り込み人数ということで、なかなか難しい部分がありますけれども、先ほど市長から答弁がありましたように、東北観光博並びにプレDCでの高い評価を本番に向けていくということで、いろんな面をつなげていきたいなというふうに思っています。

特に、来年尾花沢市独自といたしましては、二次交通の関係が一番ネックになる部分もございまして、市内のタクシー会社さんと連携をしまして、例えば尾花沢の名物のそばを食べていただくとか、芭蕉清風館をまわっていただくとか、そういったモデルコース、2時間コースとか3時間、4時間、6時間コースということで、今いろいろ商品を練っている調整をしているところでございます。

その他には、DC全体としまして県全体の所在地で30を超える提案をさせていただきますので、旅行会社さんのほうから取り入っていただきまして、誘客に努めていければなというふうに思っているところでございます。

◎議長（鈴木敏正 議員）

塩原議員。

◎3番（塩原未知子 議員）

はい、ありがとうございます。

地元の総意があって、今はもう必要だというお言葉です。数が多くなっている日帰りのお客様に対しても必要だということですので、ぜひ、本当地元の方とのコンセンサスを取りまして、できるだけ心地よい体験をしていただいた状態で帰っていただければと思っております。

トイレの問題というのは、本当に実は旅先に行くと思い出に残るようなことだという調査結果も聞いておりますので、ぜひ、そのあたり改善するように運んでいただきたいと思います。本当に、いろんな意味、元気を取り戻すためには一番即効性のある観光産業だと思っております。

先ほど、市長のほうからもいろいろな政策のほう、多岐にわたりお話していただきましたけれども、目に見えてわかりやすく、すぐ反映できるというのは、交流人口の拡大だと思いますので、このあたりは本当にしっかりと据えてDCキャンペーン大きな流れありますので、その終わった後の地域の取り組みこそ、本来一番大切だと思います。それが、元気な尾花沢を取り戻すための作戦だと思いますので、ぜひそのあたり、よろしく願いいたします。

時間も本当に少なくなってきたんですけども、雪の季節にこそお客様がきていただければ、どんなことでも尾花沢すばらしいなという言葉を残していただけるのではないかと思っているところですので、ご案内に対しての細心の注意、これからの季節やっていただきたいなと思っております。その他いろいろ、心配されることもありますが、まずは、前を向いて、みんな一丸となってよい尾花沢を伝えるために、作るために、頑張っていきたいと私も思っておりますので、よろしく願いいたします。

市長のほうも、先ほどの答弁しっかりした政策の結果がみえるとき、これから花が咲き、実がなるということをお聞きしましたので、それを待ちたいと思います。よろしく願いいたします。以上、私の質問これで終わります。